

ギャラリー

グリフィス絵日記

グリフィス館 1 階で展示している 4 枚の絵は、グリフィスの福井滞在中の文章を基に、画家林ゆかりさんに描いていただいた作品です。通常展示以外の絵 4 点を、元の文章と共に紹介します（文は当館展示監修者山下英一氏による訳文）。



3月11日（土）

午後、ルセーさんと馬に乗って出た。異人が2人、馬に乗って初めて外出。裸足の別当が3人。その後に犬が5匹つづく。大人も子どもも集まってくる。山は光り、バラ色の夕焼け。

[グリフィスが福井に着いたちょうど1週間後です。アルフレッド・ルセーは最初の数か月間同居していた同僚の英国人教師。町の人もグリフィスも、お互いが好奇心の塊です。]



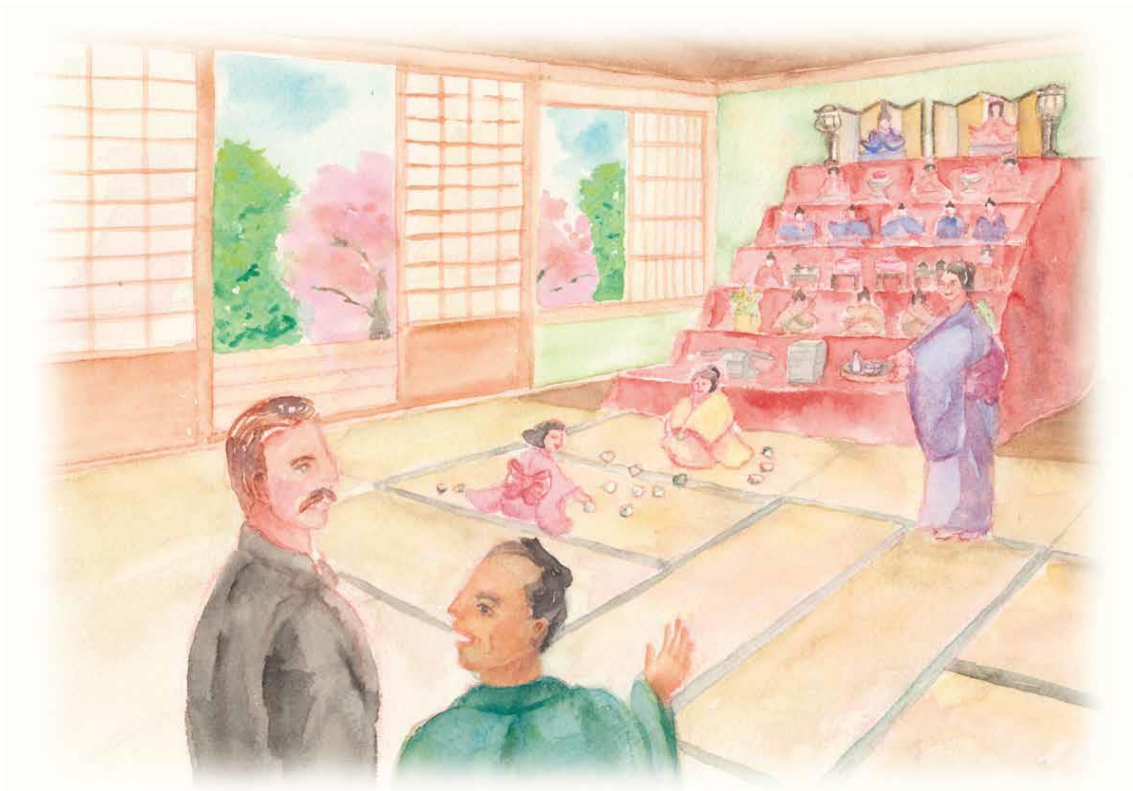
4月12日（水）

芝居を観に行った。朝9時に開演。食事が1時間あって午後6時に終わる。

見物客は食事と飲み物や菓子を持参する。タバコを吸う男、赤ん坊に乳を含ませる女。

男も女も酒を飲む。芝居は日本人の生活を忠実に演じているので実に面白くて斬新だ。

[劇場があった浜町が当館の所在地です。グリフィスを観劇に連れ出した医者橋本綱維は維新の志士として有名な橋本左内の弟で、グリフィスとはとても相性が良かったようです。]



4月22日（土）

松平さんの招きを受けて彼の家を訪ねた。

長い部屋（30 フィート）に床から天井にかけて赤い布を敷いた段に、人形とありとあらゆる日本のおもちゃがいっぱい美しく並んでいた。新しいものや、中には 100 年くらい昔のものがあった。

[日付は旧暦の 3 月 3 日。日本が今日通用している西暦を採用するのは二年後、グリフィスが東京に滞在中の 1873 年の元日からです。グリフィスは一年の間に、多くの武士や庶民、福井以外の町や村の人たちとも交流し、日本の文化を吸収・理解していきました。]



5月14日（日）

小舟で川から海に出た。岩には鳥が群がり、女（人魚）が水に潜って貝を取るのを見た。柱状の玄武岩。燈台。漁村。海女の踊りを見物した。

[東尋坊で海女さんにとれたての貝の味噌汁をごちそうになりご満悦だったことが姉への手紙からうかがえます。スポーツマンでもあったグリフィスは、三国湊から眺めた白山に登ることを決意し、夏休みに登頂しています。]



11月30日（木）

黄昏時に散歩した。父、母、子どもの家族が鈴、仏典、ろうそくを持って、燈明のついた仏前で祈っているのを見て感動した。

[揺るぎないキリスト信仰をもつ牧師として生きたグリフィスは、日本仏教にプロテスタントイズムとの共通性を認識し、庶民の間で敬虔な信仰が息づいていることに心から感動しました。日本人の信仰心にキリスト教が接ぎ木されてしっかりと根付くことを期待すればこそ、宣教師の多くに見られた日本文化への無理解を嘆きました。]